



対立が起きるとき

暗唱 聖句

^{バプテスマ}
「洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」
(ガラテヤ3:27、28、新共同訳)

「キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである」
(ガラテヤ3:27、28、口語訳)

今週の 聖句

使徒言行録6:1～6、使徒言行録10:1～23、マタイ5:17～20、
使徒言行録11:3～24、使徒言行録15:1～22、アモス9:11、12

安息日 午後 11/10

今週のテーマ

いずれのクリスチャン共同体にとっても、最も難しい課題は、その教会のアイデンティティーや使命に関する問題について意見の相違が生じたときに一致を保つことです。このような相違は、悲惨な結果につながりかねません。

今日のクリスチャン共同体は、私たちが新約聖書の中に見る共同体と何ら違いがありません。人は人であり、重要な点に関してであっても、違いは生じます。初期のクリスチャンたちは、対人関係にまつわる感覚的な偏見や、重要な旧約聖書の物語や習慣に対する深刻な解釈の違いから生じたいくつかの対立に直面しました。これらの対立は、もしその緊張を解消するために聖霊と聖書の導きを求めた思慮深い使徒や指導者たちがいなかったら、生まれたばかりの教会を破壊していたかもしれません。

数週間前、私たちは、初代教会がどのように教会の一致を体験したのかを研究しました。今週は初代教会が、その一致を弱らせ、教会の生き残りを脅かした内部対立をいかに克服したかに目を向けます。その対立とは何だったのでしょうか。どのように解決されたのでしょうか。これらの体験から、現代の私たちは何を学ぶことができるのでしょうか。

使徒言行録6:1を読んでください。初期のクリスチャンのある者たちは、彼らの中にいるギリシア文化の伝統を持つやもめたちに偏見を持ち、彼女たちには、ヘブライ文化の伝統を持つやもめたちよりも少ししか支給しなかったようです。この感覚的えこひいきが、初期の信者の共同体の中に亀裂を生じさせました。えこひいきが本当にあったかどうか、聖句には書かれていません。えこひいきがあると
思う人たちがいた、と言っているにすぎません。この対立は、極めて早い段階で教会の一致を脅かしました。民族的分裂がこれほど早く教会内に見られたというのは、なんと興味深いことでしょう。

問1 使徒言行録6:2～6を読んでください。この誤解を解くために、初代教会が講じた単純な対策は、どのようなものでしたか。

初代教会は急速に成長しており、この成長は使徒たちにますます重荷をもたらしました。(新約聖書はそのように呼んでいませんが、) 伝統的に「執事」と呼ばれてきた7人を指名することで、エルサレム教会内の緊張は和らぎ、より多くの人が教会の働きに関わるようになりました。

使徒たちは、ギリシア語を話す信者の苦情に注意深く耳を傾け、彼らに解決策を尋ねました。使徒の同僚となる7人の選出が弟子たちのグループにゆだねられ、彼らは7人の弟子を推薦しました。全員がギリシア語を話す文化の出身者でした。この人たちは、「霊」と知恵に満ちた評判の良い人(使徒6:3)だと言われました。その時まで、神の言葉を宣べ伝えることと、やもめたちに食べ物を分配することの両方であった使徒たちの働きは二つのグループに分けられ、それぞれが福音宣布のために等しく価値のある働きをすることになりました。ルカは、御言葉を宣べ伝える使徒の働きに対しても(同6:4)、食べ物を分配する執事の働きに対しても(同6:1)、「ディアコニア」(「任務」「奉仕」の意)という同じ言葉を使っています。

◆ 解決策を見いだすために指導者たちが多くの信者を呼び集めたという事実の中に(使徒6:2)、あなたはどのような意味を感じますか。

異邦人がイエス・キリストの福音に改宗したことは、初代教会の教会生活において最大の対立、教会の存在と使命を脅かすことになる対立へのきっかけとなった（使徒言行録における）一つの出来事です。

使徒言行録10:1～23を読んでください。ペトロにとって、この幻は奇妙に思えたに違いありません。彼はショックを受けました。なぜなら、彼は忠実なユダヤ人として、律法が命じるように（レビ11章、エゼ4:14、ダニ1:8参照）清くない物や汚れた物を食べたことがなかったからです。しかしこの幻の意図は、食事に関してではなく、福音の拡散を妨げていたユダヤ人と異邦人との障壁に関してでした。そのような障壁は、現代と同様、少なくとも古代世界において、広く行き渡っていました。

最初の数十年間、キリスト教は、旧約聖書の預言の約束されたメシアとしてイエスを受け入れたユダヤ人たちによって、基本的に成り立っていました。これら初期のイエスの信者たちは、教えられてきたとおりに律法を守る忠実なユダヤ人でした。彼らは、イエスの福音が旧約聖書の禁止命令を消し去ったとか、廃止したとか、考えなかったのです（マタ5:17～20参照）。

問2 使徒言行録10:28、29、34、35を読んでください。ヤッファで見せられた幻の意味を、ペトロはどのように理解しましたか。なぜ彼はそのように解釈したのですか。

使徒言行録の中で起こっていることは、異邦人がクリスチャン共同体の交わりの中に受け入れられるために、聖霊がお膳立てをなさったことです。そして彼らは、割礼を受けさせられることも、まずユダヤ人にさせられることもなく、クリスチャン共同体に加わることができました。それが確かに神の御心であるとペトロや彼の友人たちに確信させたのは、イエスの弟子たちが五旬祭の日に経験したのと同じように（使徒10:44～47）、コルネリウスと彼の家族に聖霊が注がれたことででした。もし聖霊がユダヤ人に与えられたのと同じように異邦人にも与えられるのであれば、割礼を受けることがメシアとしてのイエスの信者になることの前提条件でないことは明らかです。この結論が、初期のクリスチャンの間における大きな神学的対立のきっかけとなったのです。

カイサリアでコルネリウスに起こったことの報告は、すぐにエルサレムのクリスチャン共同体の指導者たちに届き、彼らはペトロに、起こったことの説明をするよう求めました。彼らは、ペトロがしたことに腹を立てていました。なぜなら、モーセの律法に対する彼らの理解に従えば、忠実なユダヤ人は異邦人と一緒に食事をするのが許されていなかったからです（使徒 11:3）。

使徒言行録 11:4～18 を読んでください。ある者たちは、ペトロがこの異邦人たちにバプテスマを授けた行動と決定の正当性について、疑問を呈しました。しかし、五旬祭の時と同じように聖霊が確かに存在を示されたらと、十分な人数の証人が証明したのです（使徒 11:12）。この件における聖霊の導きは否定できませんし、事実、賜物が与えられています。「この言葉を聞いて人々は静まり、『それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのだ』と言って、神を賛美した」（同 11:18）。

問3 使徒言行録 11:19～24 を読んでください。初代教会の教会生活の中で、次にどのようなことが起きましたか。

エルサレムのある者たちは、コルネリウスと彼の家族に起こったことは例外であって、そのような経験が繰り返されることはないだろう、と考えたかもしれません。しかしそれは、聖霊が意図されたことではありませんでした。ステファノの死後に起こった迫害のために（使徒 8:1）、イエスの弟子たちがエルサレムやユダヤを越えて散らされ、サマリア、フェニキア、キプロス、アンティオキアなどへ行くと、それに続いて、ますます多くの異邦人がイエスを救い主として受け入れました。これは、イエスが予告なさっておられたことです（同 1:8）。異邦人の流入はすばらしいことでしたが、もし私たちがこれら初期のユダヤ人信者の立場で考えてみるなら、彼らがどう対応したらよいのかわからなかったことを理解するのは難しくありません。

◆ 私たち自身も、私たちのあかしを妨げうる、教会やメッセージに対する偏狭な考え方をいかに持ち続けている可能性がありますか。

問4 使徒言行録 15:1、2、ガラテヤ 2:11～14 を読んでください。初代教会に深刻な対立を生じさせた二つの問題とは、どのようなものでしたか。

初期の教会員たちが直面した教会の一致にとっての脅威は、現実のものであり、難しいものでした。ユダヤ人クリスチャンの中には、救いは神の契約の民に属する者だけに限られる、と考える人たちがいました。それは、割礼が必要条件であることを意味しました。さらに、忠実な生活スタイルの一環として、このようなユダヤ人たちは、彼らの救いを妨げる可能性がある異邦人との接触を避けるべきだ、とも信じていたのです。

ユダヤ人たちは、異邦人との交際に関して、厳しい伝統がありました。そのような伝統は、イエスの弟子になりたいと望む異邦人への伝道を使徒たちが始めると、新しいクリスチャン共同体にとってすぐにつまずきの石となりました。旧約聖書に予告されていたように、メシアは神の契約の民の救い主なので、異邦人は、もし救われたいと思うなら、まずユダヤ人となり、同じ契約の規則に従わねばならなかったのでしょうか。

使徒言行録 15:3～22 を読んでください。ここでの問題は、割礼や異邦人との付き合いに関する旧約聖書の物語の解釈上の対立に深く根差していました。使徒、長老、そしてアンティオキアからの代議員たちが着席したとき、その議論は解決を見ることなく長時間続いたようです。

しかし、やがてペトロ、バルナバ、パウロが演説をしました。ペトロの演説は、神が彼に与えられた幻による啓示と、聖霊の賜物を暗に示しています。それらが異邦人への宣教の道を開いたのです。続いてパウロとバルナバは、神が彼らを通して異邦人のためになさったことについての物語を話しました。その結果、多くの人の目が新しい真理に開かれたのです。「わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです」（使徒 15:11）と、ペトロは言いました。何世紀にもわたる長年の伝統は、福音の光の中で崩壊しつつあったのです。

◆ 深く信じていたことへの理解の仕方が、がらりと変わった時がありますか。あなたはその体験から、信念に対する自分の理解を再び疑問視しなければならないときに役立つどんなことを学びましたか。

彼らの対立の最善の解決策を求めて代議員をエルサレムへ派遣するには、アンティオキア教会からの信頼が、ある程度必要でした。しかし、使徒と長老たちとの間の長時間の議論ののち、イエスの兄弟であり、この会議の指導者であったと思われるヤコブは、なすべきことについて判断を下しました（使徒15:13～20）。異邦人はクリスチャンとなるために、ユダヤ教に改宗したり、割礼を含む礼典律を全面的に守ったりする必要はないと、この会議は明確に決めたのです。

アモス9:11、12、エレミヤ12:14～16を読んでください。ヤコブはアモス9章から引用していますが、旧約聖書のほかの預言書の中にも、諸国民の救いに関するさりげない言及が見られます。イスラエルのあかしと体験を通して全世界を救うことが、当初からの神の御計画でした。実際、アブラハムに対する神の召命には、彼と彼の子孫によってあらゆる国民が祝福されることが含まれていました（創12:1～3）。聖霊の導き、異邦人の間におけるペトロ、バルナバ、パウロの働き、そして多くの異邦人改宗者が、無視できない証拠でした。そのようなあかしの助けによって、エルサレムのクリスチャン共同体の指導者たちは、旧約聖書の預言が今や成就しつつあると気づきました。実際、神は、イスラエルの中の寄留者に関する律法や、彼らに適用される制限をすでに与えておられました（レビ17章、18章）。ヤコブは、彼の決定の中でそれらの律法にも言及しています（使徒15:29）。神は、異邦人が御自分の民に加わり、イエスによる救いを受けるように、彼らを招いておられました。そのことがだれの目にも明らかになりました。彼らは聖霊の導きによって、より深く聖書を理解し、それまで悟っていなかった重要な真理に気づいたのです。

使徒言行録15:30～35は、エルサレムで決定されたことに対するアンティオキアの信者の反応を伝えています。「彼らは……励ましに満ちた決定を知って喜んだ」（使徒15:31）。

私たちは使徒言行録のここに、初代教会がいかに深刻な一致の危機を回避しえたのかを見ます。それは、愛、一致、信頼という心構えとともに、神の言葉に従うことによって可能となったのでした。

◆ 私たちにとって重要なのは、ほかの人の言うことにただ耳を傾けるだけでなく、たとえ彼らの言い分が聞きたくない内容であったとしても、それが正しいかもしれない、と考えることです。この記事は、その大切さについてどのようなことを教えていますか。

参考資料として、『患難から栄光へ』上巻第14章を読んでください。

「この事件を解決した会議は、ユダヤ人や異邦人のキリスト教会を建設するのに功のあった使徒や教師たち、及び各地から派遣された代議員たちで構成されていた。エルサレムからの長老たちと、アンテオケからの代表者が出席し、最も有力な教会からも代表者が来ていた。会議は啓発された判断が命じるところに従って運営され、また、神のみこころによって建てられた教会の権威にふさわしく進められた。審議の結果、彼らはみな、神が異邦人にも聖霊をお与えになって、論争中の問題をご自身で解決されたのを見て、彼らのなすべきことは聖霊の導きに従うことであると悟った。

この問題に関する採決のために、クリスチャン全員が召集されたのではない。影響力と判断力のある『使徒たちや長老たち』が通達を書き、発行した。そして、それはキリスト教会に広く受け入れられたのである。しかし、すべての者がこの決定に満足したわけではない。この決定に反対した野心的で、自信の強い兄弟たちの党派があった。これらの人々は、独断でみわざに携わっているという態度をとり、しきりに激しくつぶやき、あらを探し、新しい計画を持ち出して、福音使命を伝えるよう神から任命されていた人々の働きをくずそうとした。教会は最初からそのような障害にあってきたのであるが、これは、今後も常に、終わりの時まで続くであろう」(『希望への光』1430ページ、『患難から栄光へ』上巻211、212ページ)。

話し合いのための質問

- ① 私たちが今週目を向けた記事の中では、対立を解決するためにいくつかの措置が取られていました。もしあなたの所属教会で不一致が生じたなら、どんな措置が適用できますか。教会がここで対処していたのは神学的な問題でしたが、文化的、政治的、倫理的問題が教会の一致を脅かすとき、これらの記事から、役に立つどんなことを学べますか。私たちが見たことの中から、どんな重要な原則を引き出すことができますか。

まとめ

初代教会は、壊滅的な影響を受けるかもしれない多くの問題を巡って内部対立があり、それによって脅かされました。私たちは、聖霊の導きと神の言葉への服従の下に、教会がこれらの対立を解消し、分派を回避できた方法を見ました。